

埼玉育ちのグローバル人

～また帰りたくなる国～SAMOA

第2回 「時間にルーズ (!?) 厳しい (!?)

～協力隊同士でも分かれるサモアの時間感覚～」

前 JICA 東京 埼玉デスク 国際協力推進員

土屋 雅人



埼玉県マスコット「コバトン」

“外国人は時間にルーズ”
“島国出身者の中にはアイランダータイムが流れている”



“時間に正確”と言われている日本人と対比して、海外の方々の時間感覚を上記のように表現した文言を見聞きしたことがある方も多いのではないのでしょうか？

【※日本人は開始時間には厳しいが、終わりの時間にはルーズという表現が正しいかと思います】

私が青年海外協力隊として2年間活動したサモアも上記表現が（基本的に）当てはまり、サモア人自身が“サモアンタイム”と自分たちの時間感覚を表現するほど、時間がゆっくりおおらかに過ぎていく国の一つです。

私の配属先でも、朝イチの会議が時間通りはじまった記憶はなく、基本的に30分～1時間以上遅れての会議スタートとなっていましたし、その会議の中でCEOがスタッフに対して、

『いいかお前たち！俺たちの始業時間は8時半～なんだから、遅くとも9時までには来い！』
と一瞬自分のリスニング力を疑う発言をされていて、思わず真面目な雰囲気の中で笑ってしまったこともありました。

サモアボランティア間で、上記のようなサモア人の時間感覚について話をする機会があり、その場にいたほぼ全員がそれぞれの経験を基に“アイランダータイム”について話をする中、1名だけ『サモア人は時間に結構厳しい、しっかり守る』と正反対の発言をされた方がいました。その声の主は、首都から1時間ほど車でドライブした先にある村で生活していた協力隊員で、サモア語のレベルも非常に高く、村の生活に人一倍溶け込んでいた方でした。

その方曰く、
『同僚の先生方や村人たちは、重要な会議や要人の訪問があるときは絶対に遅刻しないように何時間も前から行動している』
とのこと。逆に本人も周りもそれほど重要と感じていない事柄に関しては、時間がフレキシブルになると説明されていました。

上記コメントを、私自身の配属先に当てはめると、“確かにそうだ”と感ずることも多く、“ハッ”と目が覚めた感覚が走ったことが今でも印象に残っています。

(例) 海外から指導者インストラクターの方が来られた際の送迎から1日のスケジュールは予定通り進行することが多い



また、現地スタッフの行動を時間別に見てみると、彼らは朝の時間帯が非常に強く、8時より早い時間帯に家にお迎えを約束した際は比較的準時間通り、むしろ日によっては予定時間より30分早く到着し、準備が出来ていないため逆に待たせたしまった日も多くありました。

その一方で、8時以降となると学校や一般的な仕事の始業時間となるため、スタッフそれぞれに家族や子供の送迎等の予定が発生し、予め設定されたスケジュールより後ろ倒しになることが多く感じました。

以上を踏まえると、サモアの方々がどこに優先順位を置いて(=基本的に1番は家族)、何をあまり重要と感じていないのか、時間感覚から彼らが大切にしているものを理解するきっかけなると感じました。

また、同じサモア国内で活動しているボランティア同士であっても、物事をとらえる角度や現地への理解度が異なることを改めて理解する良い機会

であったと感じています。



身の回り、特に異文化(国内外ともに)の中で生活してきた方と接する中で、相手のことを理解できないと感じることがあれば、少し見る角度を変えてみるのも良いかもしれませんね。

ここまで読んでくださってありがとうございました！